

## 国語科における平成27年度授業改善推進プランの検証

### 取り組みにおける成果と課題

- ・ 校内研究で言語活動の充実を目指して取り組んだため、自ら考え、進んで言葉で伝えようとする児童が増えた。さらに、自分から考え主体的に活動する場面を工夫しながら取り入れることで、どの学年でも国語科に対する関心・意欲を高めていく。
- ・ 漢字を読む力に優れ書く力も身に付いている。新出漢字だけでなく既習の漢字も意図的に復習させる。
- ・ 学年によって、理解が十分でない観点などがある。その学年の苦手と思われる観点と教科書の内容との関連を明確にし、日々の授業の中で苦手なところの力が付くように、指導を工夫していく。

### 国語科における調査結果の分析

内容別結果の分析	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	
	・ 話すこと・聞くことではどの学年も、目標値は上回っている。さらに話し手の意図をつかみながら聞いたり、自分の立場や意図をはっきりさせながら話したりすることができるように指導していく。	・ 書くことについては、学年が上がるごとに、目標値を上回っていく。段落構成を考えたり自分の意見とその理由を区別したりして書かせていく。4年での指導では、指定された文字数で書くことにも慣れさせていく必要がある。	・ 読むことについては、どの学年も目標値を上回っている。6年生は、説明文が苦手な傾向がある。物語文も説明文も、内容を的確に読み取るだけでなく、段落相互の関係を考えながら読むことを指導する。また幅広く読書しようとする態度を育てる。	・ 国語の特質では、目標値を上回っている。進んで読書したり辞書を活用したりする能力や態度を育てることで、いろいろな言葉を自分から使えるようにする。また新出漢字だけでなく既習漢字の練習にも力を入れていく。	
観点別結果の分析	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
	・ 5,6年の目標値は高いが、4年はやや下がっている。さらに国語に対する関心・意欲・態度を高めるために、学習活動を工夫し、主体的に活動していけるようにする。	・ どの学年も目標値を上回っている。さらに目的や意図に応じて、収集して得た知識や情報を関係づけながら話したり、相手の意図をつかみながら聞いたりすることができるようにする。	・ 5,6年の目標値は高いが、4年はやや下がっている。書こうとする中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くことを指導する。また交流する場を活用していく。	・ どの学年も目標値を上回っている。6年は説明文を読み取る力を付けさせていきたい。また朝学習の時間に読書の時間を設けるなど、読書の時間を工夫する。	・ 学年が上がるにつれて値も高くなっていく。国語辞典や漢字辞典を利用して調べる習慣を付けさせる。また漢字学習では、筆順や送り仮名、部首に注意させる。既習の漢字も計画的に練習させ、自分が書いた文章の中で進んで使うように指導する。

### 調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 国語に対する関心・意欲をさらに高める。  
→ 日常生活や他教科でも様々な言語活動を取り入れ、学習したことを活用する学習場面を工夫していく。
- 2 相手や目的に応じて、構成を意識し、調べたことや考えたことなどを工夫しながら書く力を付ける。  
→ 段落構成を考えて書くことや、自分の意見とその理由を区別して書くことを指導する。
- 3 段落相互の関係や文章の内容をとらえながら読む力を付ける。  
→ 読書を通して様々な文章に触れさせる。段落と段落との関係をとらえて文章の内容を読み取らせる。

### 国語科の授業改善策

- ・ **国語に対する関心・意欲を高めるために**
  - 全・・・俳句や詩、声のものさし等の掲示物を工夫し言語環境を整える。「話し合ったことを発表する」「読んだことを交流する」など、学習したことを使って主体的に取り組む活動を取り入れる。
  - 低、中・・・図書ボランティアの活用を図り、本の読み聞かせの時間を確保し、読書の楽しさを味わわせる。関心をもったいろいろな言葉の意味や使い方を、国語辞典や漢字辞典を利用して調べさせる。
  - 高・・・矢東タイム（朝学習）を活用し、読書の時間を確保しながら日常的に本に親しませる。俳句や短歌・慣用句・故事成語・古典などに関心をもたせる。また様々な場面で辞書を活用させていく。
- ・ **相手や目的に応じて、構成を意識し、調べたことや考えたことなどを工夫しながら書く力を付けるために**
  - 低・・・書くことによって表現する喜びを感じられるように、学校行事や生活科とも関連させながら内容を工夫する。経験したことや想像したことの順序を整理したり簡単な構成を考えさせたりする。
  - 中・・・書こうとする中心が明確になるよう文章構成を考え、目的や理由・事例を挙げて書かせる。詩や物語、手紙を書いたり、写真やグラフを解説する文章を書いたりする活動に取り組みさせる。また指定された文字数で書くことを経験させていく。
  - 高・・・様々な場面で書く活動を取り入れ、文章全体の構成を考えながら書くことに慣れさせる。詩や短歌俳句を書いたり、事実と自分の感想、意見とを区別しながら記述の仕方を工夫したりさせる。
- ・ **段落相互の関係や文章の内容をとらえながら読む力を付けるために**
  - 低・・・楽しんで読書しようとする態度を育て、事柄の順序や場面の様子に気を付けながら読ませる。
  - 中・・・いろいろな種類の本に関心をもたせる。構成の仕方注意到、事実と感想、意見などとの関係を押さえながら読ませる。また感想などを交流する場を設定する。
  - 高・・・目的に応じて、本を選んで読ませていく。一つの段落を詳しく読むのではなく、段落と段落とを関係付けて文章全体の内容をとらえたり、自分の考えを明確にしながらかみ読みさせる。